

平成 29 年度 「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」 事業・学校元気アップ 地域本部事業合同実践報告会

日程：平成 29 年 11 月 25 日（土）14：00～16：30

会場：大阪市立総合生涯学習センター 5 階第 1 研修室

テーマ：「地域全体で子どもたちの成長を支える教育コミュニティづくり」

内容：基調講演／大阪府教育庁市町村教育室主任社会教育主事篠崎正則

事例報告／四貫島小学校区はぐくみネット（此花区）

中野中学校区学校元気アップ地域本部（東住吉区）

パネルディスカッション

大阪市では、小学校区における「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業のほか、中学校区においても学校・家庭・地域の組織的な連携のもと、地域社会全体で子どもを育てる「学校元気アップ地域本部事業」を実施しています。今後の両事業の推進に向け、事業関係者及び事業に関心のある方が、事例などを通して両事業の成果と課題を共有し、教育コミュニティづくりと学校教育支援活動についてともに考え交流する機会として開催しました。

最初に基調講演として「地域全体で子どもたちの成長を支える教育コミュニティづくり」をテーマに大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課主任社会教育主事篠崎正則さんより講演いただきました。

河内長野市の小学校と中学校教諭を歴任されたあと、大阪府庁に異動し、家庭教育支援を 3 年、そのあと学校支援活動などを担当されており、府内の様々な取り組みを見られることが一番よかったとこれまでの地域との関わりを交えて講演をはじめられました。

ご自身のお子さんに毎日注意してしまうことで、子どもの良さをつぶしてしまっているのではないかと反省するが、翌日も同じことをしてしまう。地域に出かけたときに「いつもがんばっているね。しっかり挨拶してくれているね」と周りの人が激励してくれることで、子どもたちは自信を持ってくれる。親だけで抱え込むのには限界がある。地域の人と一緒に育てているから育っている。それが教育コミュニティ作りの取組だと思う。同時に子どもたちも「こんな大人になりたい」と将来像をイメージできるのではないかと、経験を語られました。

続いて、学習支援やフェスタ、情報誌の発行などの取組について、それ自体が非常に有効な取組であると同時に、その活動が終わったあとにできる繋がりや、取組むことで次のイメージやアイデアが出ることも重要であると続けられ、府教育コミュニティづくり実践交流会のなかで他市の実践に感銘を受けたコーディネーターが、実際に見学に行き、取組を地域に持ち帰り実践した事例を紹介されました。

国ではさまざまな改革が行われており、今年の 3 月には社会教育法が改正され、地域と学校が協働する取組を地域学校協働活動と名付け、社会教育法に明文化されました。

これは、学校元気アップ事業やはぐくみネット事業を国が法律に位置づけたということ。

その背景には今の子どもたち、これから生まれてくる子どもたちには、新たな課題に対し知識を応用し、自ら考え解決に向ける力が必要になると予想されることから、社会に開かれた教育課程が進められている、と話を進められました。

講師自ら講義を行っておられる大学でのアンケートに、「自分が子どもの頃に地域でやってもらっていた

ことだ」という感想が非常に多く返ってくる。子どもたちは地域から支援してもらったことをしっかり覚えてくれている。それを皆さんにお伝えしたかった。と講演を締めくくられました。

事例報告では、まず四貫島小学校区はぐくみネットから、年間の報告が事業ごとに行われた。土曜日授業、各学年への支援、1・2年生と幼稚園児との交流、四貫島商店街の協力を得ての出店などを報告されました。また、各事業での作品は、小学校の玄関ショーケースに展示されているとのことでした。

年間の活動を企画するため、協議会を2回、事務局会議を5回開催され、生涯学習推進員が事務局のコーディネーターとして日程調整や連絡を担っていると報告いただきました。

7回目の実施を迎える四貫島っ子フェスタは、餅つき大会からスタートしたが徐々に発展し、現在では体育館に、ふれあい喫茶・おもちゃ・物づくり体験・フェイスペインティング・社会福祉協議会など、運動場では此花消防署・此花警察署のブース、舞台発表では、梅香中学校吹奏楽・生涯学習コーラス部・四貫島小学校音楽クラブ・同ダンスクラブ、落語など、地域を巻き込んだ取り組みになっていると報告されました。

中野中学校区学校元気アップ地域本部からは、「学習支援」「ENJOY！英活」「図書支援」について報告いただきました。

組織は、地域コーディネーター、学校管理職、学校協議会およびPTA役員で構成されています。

学習支援の「テスト前学習」と「夏休み宿題やりきり隊」は元気アップ立ち上げ当初からの活動で、休日の登校を含むため、事前に保護者の承認をもらったうえで参加者を募集しています。ボランティアさんは、地域OBから学生さんまで多くの参加協力をいただいています。2学期中間テスト前を例にとると、1日平均60名の参加があり、これは全校生徒の約1割。ボランティア数も平均5人が関わってくれ、学習会を円滑に進めることができます。

続いて「ENJOY！英活」について報告されました。「英語で世界を探検しよう！」「英語で世界を見よう！」「英語で自分や日本を伝えよう！」を合言葉に、地域から海外生活の経験のある人や英語が好きな人をボランティアとして募り、隔週土曜日に2時間活動しています。近隣中学校の子どもたちも参加していて、今年の2月には、区役所からの紹介でグアムの中学生との国際交流が実現しました。午前中は土曜授業とコラボ、午後からは英活とコラボ。また、近くの商店街に協力を仰ぎ、お寿司作り・和服の着付けなどを体験させてもらうことができました。

図書支援では、校舎建て替えて使えなくなっていた図書室を、図書館補助員と協力して書棚や図書の整理、バーコード化など行うことで、毎日の昼休みと放課後の開放を実現した。と報告されました。

学習ボランティア確保の問題は自分の子どもにSOSを出し、子どもの友人をスタートに広がったこと。地域コーディネーターを中軸とした学校と連携できる組織としたこと、グープレインでみんながつながることにより情報共有ができたことが、中野中学校区学校元気アップ事業の原動力だと締めくくられました。

その後、篠崎先生と事例報告者とパネルディスカッションが行われ、篠崎先生からは各事例に対する講評と両パネラーへの質問がありました。

篠崎先生の「今回の報告会をきっかけに、直接おはなしをされるなど、この場が有意義に活用され、それぞれの取組が活発になっていただけたらと思います」という言葉で締めくくられました。

小中学校の現場の声や様子、校区コーディネーターの達成感と課題についてなど、参加者の方にとって大

変参考になる話が多くあり、あらためて地域と学校の連携の大切さ・必要性を感じる報告会となりました。

【参加された方々の感想】 アンケートより抜粋

- ・自分の普段の活動と共感できる点が多かった。
- ・自分たちのやっていることが、少しずつでも何かの役に立っているのだと、少しやる気が出た気がします。
- ・学校元気アップの中野中学校の取り組みやボランティア集めの経験談が聞けたのがよかった。
- ・基調講演で地域の教育資源（人的・物的）の重要性を強調されていたので、これからの学校との関わりに道筋が見えてきた。
- ・学習ボランティアを集めるにあたって、自分の子どもの関係を当たってみるというのは、今まで気づきませんでした。・学校運営から独立した事業としてあるのではなく、学校運営の中に取り組んで、大きく活動ができるようになってるのがすごい！我が校の事業はそれなりにできているが、もう一段の発展ができるかと感じた。
- ・地域とどのようにつながってゆけば良いか、両校のお話と映像を見せていただき、素晴らしい活動をされていてびっくりしました。やる気がでました。
- ・これからもがんばる力をいただきました。卒業生が戻ってきたくなる学校を目指したい。
- ・大阪市内の交流会はとても良かったです。もっと増やしていただけると有難いです。
- ・他校の取り組み内容を具体的に知ることは、おおいに参考になる。
- ・地域と学校のつながりを深める仕事が元気アップ地域コーディネーターにあることがわかり、現在行っている活動を少しずつ高めていきたいと思います。ボランティアの要請等進めて、交流し深めていきたい。
- ・事例発表内容がわかりやすかった。